

気になるボート乗りまくり

文・国方成一 写真・山岸重彦(本誌)

OPA CRAFT OPA Light 3

わずか10秒で組み立て完了! 安全重視のエアフロート装着!
軽くて丈夫なFRP船体! 新装備のウォーター・ブレーカー!
「優れた地域産業資源を活用した事業」の認定——これが「OPA ライト3」の全貌だ。
これはユーザーの使い勝手をとことん追求した単純明快な新艇である。

OPA Light 3
全長:3.15m 全幅:1.26m 深さ:0.45m 重量:43kg
定員:2人(フロアと付き3人) 重ね合わせ寸法:1.6m
エンジン搭載可
価格:223,650円(税込み)



船内の床には板(三枚)が敷かれフラットな面は乗り心地がよい。中央の接続部は座席にもなる

経済産業省から「優れた事業」認定

長年一つのを追求するには非常な努力と忍耐が要る。スモールボートメーカー、オーパ・クラフトの企業姿勢がまさにそれだ。分割式のFRPボートを作り続け、常に完成度を高めるための研究開発を続けてきた、小型ボート業界でも特異な存在といってもよい。その企業スタイルを代表するのが社長の福庭正宏氏。言い換えれば同氏の姿勢がそのままオーパ・クラフトのボート造りでもある。

その結果得たのは、経済産業省から「優れた地域産業資源を活用した

事業」としての認定である。その審査は、事前の連絡も全くないまま、突然に調査担当官が来社したという。調査ぶりも非常に厳しいものだったと社長は語る。認定された原因の大きなポイントは、製品開発の独自のアイデア性にあったのだろうとも言う。もちろん助成も受けることとなった。スモールボート業界の快挙といっても言い過ぎではないだろう。

わずか10秒でボート組み立て完了

単純なFRP製の分割式ボートだから、製品に抜きん出た特徴というもの

はなく、ではどこが認定の対象になったのだろう。だがこれはよく考えてみれば、手の込んだ人目を引くハイテクな設計より、ユーザーの使い勝手を優先した簡単明瞭なデザインコンセプトこそ、良い製品造りの要である。そんなオーパ・クラフトのボートOPA ライト3を、改めてじっくりと紹介しよう。

まずなんといっても一番の“売り”はわずか10秒でボートを組み立てられるというカラクリだ。

もちろん使用後の分解も同じく、大げさに言えば、瞬きする間にできるというのがオーパの真骨頂である。そのカラクリのポイントは楔(くさび)式と



1人乗りの前後トリムとしてはまず良好。前方に釣りなどの荷物を置けば、ちょうどよいトリムになるだろう。静かな水面の走航では、フェンダー・フロートの抵抗はこのとおり全くない

でもいべき特殊部品を使った接続方法で、数十年にわたりそのデザインは変わらない。

接続するボートの前後を合わせ、その隙間へ楔式の部品を差し込む、というより“足で蹴り込む”と言った方が分かりやすかろう。そんな動作にもびくともしない頑丈なボート本体である。この一つのアクションだけで、そのままさっと水面へ浮かべることができる。せっかちなアングラーには、これほどうれしい組み立てはない。しかも釣行が終わり、後の片付けも手軽となれば、新鮮な魚を持ち帰り調理する時間の余裕までできるメリットもうれしい。

十分な浮力を確保できるエアフロート

さて、オーパ・クラフトのシンプルボートには、安全面を重視したアイデアが次々と追加されてきた。中でも十分な浮力を確保できるエアフロートの取り付けは際立って優れた装備品で



(左)オーパのミニトレーラーに乗せたところ。エンジン取り付け用のスタンドはオプション
(右)積み重ねると前後は1.6mコンパクトなサイズになる。フェンダー・フロートなども中へ収まる



(左)真ん中の楔(くさび)は、前後をかみ合わせ、上から差し込む (右)楔をしっかり差し込んでいるところ



組み上がり。二、三回の練習で簡単

ドローリーを取り付け、早々とスロープへ



背もたれが量める操縦用の椅子は、フロアに置いてあるだけだが、クッションを乗せるとさらに座り心地もよく安定。右舷のフロートが少し水面についているが、引き波を見ても大きな抵抗感はない



(上)ウォーター・ブレイカーの効果も有効で、前方に上がるしぶきも気にならない。もし不要の場合は内側へ畳み込めるから便利だ
(左)ボート幅1.26mはローイングしやすく、フェンダー・フロートとの緩衝もしない工夫がされている。ウォーターラインとシアラインが平行になり、乗船者の位置としてはベストだろう

ある。それによるボートの安全性の高さも今回の認定にいたった大きな原因の一つであろう。

そのフロートの特殊性は、既成のボートフェンダーを利用したことにある。福庭氏は長い間、ボートに最適な浮力体について、さまざまに考えをめぐらせ、いろいろな“モノ”のテストを繰り返した。その結果、大きなボートの防舷材である空気式のフェンダーに行き着いた。またそれを取り付けるワンタッチの金具も大きな特徴で、陸上で運搬するドリーも同じ取り付け方法である。

ドリーによりスロープもしくは浜辺から水上へ浮かべ、乗船したままドリーを外す。空気タイヤの浮力があるから、取っ手を押し出すといとも簡単に外れ、船内に取り込める。今度は同じ受け金具へ、フェンダーの浮力体を取り付けるといった簡単な手順である。ドリー、フェンダーとも手元にはつかみやすいハンドルがあり、取り付け作業に手間取ることはない。

筆者は数年前にもこのフェンダー付きのオーバークラフトに試乗したことがある。そのときはオールとのかかわりや、取り付けたフェンダー・フロートが巻き上げる水流が気になった。しかし今回の試乗ではそれがしっかりと改善され、ローイングはしやすくエンジン走行でも水しぶきが船内へ入ることはほとんどない。このように、常に不備を改善する姿勢が、オーバークラフトの人気へつながっているのだろう。

カッコイイ「ウォーター・ブレイカー」

さらに今回は、新しい装備品を目にすることができた。オーバークラフトでは「ウォーター・ブレイカー」と呼んでいる、水しぶきをよけるウィンドスクリーンである。装着するとヴィンテージなスポーツカーの格好良さがある。そのスクリーンは透明アクリル板の下部へ柔らかいプラスチック系のスティックが取り付けられ、バウデッキへしっかりと乗る仕組みである。

取り付け方法もバウデッキ下にあるステンレスのロッドへ差し込み、ハンドル付きのボルトを締めるだけだ。ロッドの長さ分だけ左右にスクリーンを移動でき、中央にあるもやいやアンカーロープの隙間も作れる。また出航や帰航時に不要になれば手前へ倒すことも可能だ。

今回の試乗は琵琶湖を舞台に、スモールボートにしてはやや長い距離も走行したが、なんといっても浮力の安全性は乗船者に精神的安定をもたらし、他の大型ボートが起こした引き波もうまく乗り越えることができた。

今後さらにオーバークラフトがどのようなアイデアをボートへ盛り込むか興味深い。

問い合わせ先：有限会社オーバークラフト
〒474-0023 愛知県大府市大東町2-100
TEL:0562-57-3901 FAX:0562-57-3902
<http://www.opacraft.com/boat/boat-1.htm>



ストレートなシアラインは、分割して重ねたときに、平たくコンパクトになる

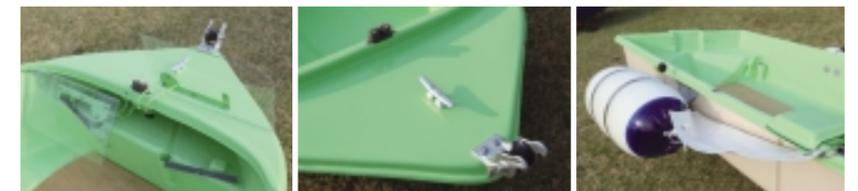


(左)バウから見たボトムの形状は、チェーンがしっかりと張り出し、舟幅の割には左右の安定度が高いデザイン
(右)トランサムエンジンは、厚めの木製板で頑丈にできている



ボトム船型はいわゆるカセドラルタイプで、チェーンにはエッジが張り出している

(左)船内中央の浅いV形に、フロアの板が渡して敷かれる
(右)ボトムの接続部に、他社製によく見られる「受け金具」のないのがオーバの特徴



(左)バウデッキの装備品「ウォーター・ブレイカー」。デッキ下にあるロッドへ差し込み、不要なときはネジを緩めて手前へ倒す

(中)バウデッキには、手前からアンカーローラー、クリート、カムクリートが並ぶ。カムクリートは後方からアンカーロープを操作するのに有効な装置だ。しっかりしたアンカーローラーを見ると、オーバのボート造りは釣りファンの要望を重視している

(右)フェンダー・フロートには波よけのクロスがつき、カラビナを舷にあるアイ(右手前)へ引っ掛ける



(左)ドリーはこのようにバウデッキ下へスマートに収納できる。固定するにはベルクロ(マジックテープ)を使用

(右)ドリーとその受け金具。球状のグリップがついた持ち手がかみやすい

魚群探知機のセンサーを入れるためのパイプもある(手前)。向こうは加工されたロッドホルダーで、ボートの前後左右にある